

## 1 単元名 わたしたちの生活と食料生産

## 2 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(2)「我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることをかんがえるようにする」を受けて扱うもので、大単元「わたしたちの生活と食料生産」の中の単元のめあてづくりとして設定した。大単元では、日本国内で生産されている食料の産地に関心を持ち、資料を集めて意欲的に調べることや食料品の産地の特色や傾向から、産地の人々の工夫や努力、自然環境との関わり、食料輸送の工夫や努力など、学習の観点を見出すことをねらいとしている。

本単元においては、このねらいに迫れるように、日本の食料の産地調べを通じて日本の農業や水産業、畜産業の様子について大きく見通せる活動をオリエンテーションとして位置付けている。そして、第1小単元「米づくりのさかんな庄内平野」と第2小単元「水産業のさかんな静岡県」では、日本の歴史ある稲作と漁業の事例を通じて日本の食料生産の様子や特色を扱う。さらに新学習指導要領で重要視されている「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎」を育てるために、第3小単元「これからの食料生産とわたしたち」を設定している。この小単元では、稲作や水産業の学習を生かして、日本の食料生産の今後のあり方について具体的に考えさせるようにする。これらの学習を通じて、日本の農業や水産業が、国民の生活において食料の確保に重要な役割を果たしていること、それらが自然環境と深いかかわりを持っており、生産者や流通業者の工夫や努力によって成り立っていることを正確に理解させたい。そして、これからの農業や水産業のあり方について、自分自身の生活と結びつけて考え、食料生産の発展にはどうすればよいか考え、それを適切に表現する力を身に付けさせたい。

本校の学区である土気地区は、自然が豊かで千葉市の中でも農業が盛んな地域である。特に畑作が盛んで農作業の風景が至る所に広がっていて児童の身近に米作りや野菜作りの存在がある。しかし、児童が実際に触れる機会は少なく、給食の食材や自分たちが食べている食材がどこでどのように生産され、どのように運ばれているのか詳しく理解できていない。さらに、水産業に関しては児童の身近な存在とは言えず、農業以上に理解が乏しい。児童にとって、農業や水産業とは、スーパーの店頭で並べられている商品でしか触れる機会がなく、本単元の学習の中で、生産者の工夫や努力、流通の仕組み、生産者と消費者の結びつきについて考えることは、自分たちの生活を支えているものを考えることであり、それは新鮮で有意義なものになるであろう。

本学級の児童は、4年生の社会科の学習での「県の広がり」の単元において、千葉県内の農業や水産業、地場産業について学習した。食料生産に関する県内の地場産業の事例として、野田の醤油作りを取り上げた。実際にキッコーマンの醤油工場で働いている職員の人たちから話を聞き、児童は醤油作りの工夫や努力などに対して理解を深めることができた。また、5年生の前単元では、「わたしたちの国土」という単元において、地図や写真や統計などの基礎的な資料を活用して、我が国の国土の自然などの様子について学習した。国土の地形や気候の概要、自然条件からみて特色ある人々の生活を学習し、あたたかい地域の事例として沖縄県の暮らしを取り上げ、その気候や産業、文化や歴史について調べた。

この児童の実態を踏まえて、指導にあたっては、①児童の興味・関心から学習問題作りへ、具体物やICTを活用した単元の導入の工夫、②グラフや統計資料の読み取りの基礎的な技能の定着、③中心資料の厳選に留意する。導入時に具体物の提示やICTでの資料の提示や説明での活用によって、児童の興味・関心を高める。そして、米の生産量と消費量の比較のグラフや、漁獲量の変化のグラフなどの読み取りの技能を高めつつ、戦後の農業や漁業の変化をつかませる。また、写真やグラフなど、一単元においての中心資料を吟味して提示し、生産者の工夫や努力を考えさせ、単元のまとめには、日本の食料生産の発展を考え、まとめさせたい。

### 3 児童の実態（男子 12 名、女子 11 名、合計 23 名）

#### ①「日本国内で作られている食べ物には何があるでしょう」（複数回答可）

<ul style="list-style-type: none"> <li>●穀物 … 12 人</li> <li>・米…11 人</li> <li>・麦…1 人</li> <li>●果物 … 31 人</li> <li>・ミカン…8 人</li> <li>・リンゴ…6 人</li> <li>・パイナップル…4 人</li> <li>・メロン…3 人</li> <li>・梨…3 人</li> <li>・サクランボ…3 人</li> <li>・ブドウ…2 人</li> <li>・その他…2 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●魚介類…19 人</li> <li>・鮪…3 人</li> <li>・鰹…3 人</li> <li>・鯛…3 人</li> <li>・鰯…2 人</li> <li>・秋刀魚…2 人</li> <li>・その他…6 人</li> <li>●野菜類 … 44 人</li> <li>・人参…7 人</li> <li>・すいか…5 人</li> <li>・玉葱…5 人</li> <li>・きゅうり…4 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落花生…4 人</li> <li>・レタス…4 人</li> <li>・サトウキビ…2 人</li> <li>・じゃがいも…2 人</li> <li>・大根…2 人</li> <li>・キャベツ…2 人</li> <li>・その他…7 人</li> <li>●肉類 … 13 人</li> <li>・牛肉…5 人</li> <li>・豚肉…4 人</li> <li>・鶏肉…2 人</li> <li>・肉…2 人</li> </ul>
--	---	---

#### 【考察】

設問①では、児童の学校や家庭での生活習慣から、日本国内でどのような食材が生産されているかの学習前の理解度を調査した。本学級の多くの児童が、「米」と答えていて、米が日本国内で盛んに作られていることが児童の間で意識されていることがわかる。給食においてもご飯のメニューが多いことから、児童の身近な存在として米があることがわかる。実態調査の中で、米の次に児童が挙げる項目が多かったのは、果物である。ミカンやリンゴと答える児童が多く、果物の生産が日本国内で行われているという意識が強いことがわかる。また、調査の累計では、野菜の数が多いが、これは、少数の児童によって、たくさんの野菜の種類を書いているためであり、必ずしも多くの児童が、上記の野菜が国内で生産されているという実感を持っているわけではない。加えて、肉類や魚介類を挙げる児童が少なく、国内で生産されている実感をあまり持っていないことがわかる。

よって、本単元の学習問題作りにおける導入において、普段食べている食料の産地調べを行うことにより、日本国内で多くの食材が生産されていることを、地図や地域の広告を活用しながら調べて理解することは、本学級の児童にとって大変有効であり、新たな発見や気づきがあると思われる。身近な野菜や魚介類、肉類が、実は国内でも生産されているという事実に気づかせ、どのように生産されているのか考えさせたい。

#### ②「次の食材は、どこで作られていると思いますか」（無記入・不明な児童は除外）

1	じゃがいも	北海道…5 人 東北地方、千葉県、埼玉県、山形県…1 人	2	きゅうり	栃木県…2 人 沖縄県…2 人 九州地方、茨城県、沖縄県、福島県、千葉県…1 人
3	牛肉	宮城県…2 人 オーストラリア…2 人 東北地方、九州地方、北海道、長野県…1 人	4	ミカン	愛媛県…3 人 山梨県…3 人 静岡県…2 人 四国地方、近畿地方、茨城県、和歌山県…1 人
5	玉葱	埼玉県…3 人 近畿地方、北海道、宮城県、新潟県…1 人	6	リンゴ	青森県…13 人 東北地方…1 人

7	鰹	千葉県(銚子市)…19人 北海道…1人	8	パイナップル	沖縄県…20人
9	レタス	千葉県…1人 関東地方、茨城県…1人	10	さくらんぼ	アメリカ…4人 茨城県…2人 中部地方、東北地方、 中国地方、新潟県、長 野県、山梨県、千葉県、 愛知県、山形県…1人

### 【考察】

設問②では、児童のこれまでの学習や生活経験から、わたしたちが普段から食べている食材について、どの程度産地について知識があるのかどうか調査した。鰹に関しては、4年生のときに学習した「銚子市の漁港調べ」が生きており、銚子港で鰹の水揚げが盛んであることが、本学級の児童に定着していることがわかる。また、前単元で学習した「あたたかい地域の人々の暮らし」で、沖縄県の産業を学習したので、パイナップルの生産が沖縄県で盛んであることも理解している。また、学校や家庭での生活経験からリンゴの産地が青森だということを認識しているようである。しかし、その他の項目については、多くの児童が産地について知らないか、異なったイメージを持っているということがわかる。そのため、本単元の導入の食材の産地調べにおいて、地図を活用しながら一つ一つの産地について調べていくことは、児童にとって知識の確認だけではなく、新たな発見や疑問も含んでおり、未知の事項であることから、一層に興味・関心を引き出すであろう。そのことが、導入の後の米作りや水産業の学習につながっていくのではないかとと思われる。

### ③「親戚や近所の人など身近な人で農業を営んでいる人はいますか」

はい	いいえ
13名(57%)	10名(43%)

### ④「親戚や近所の人など身近な人で水産業を営んでいる人はいますか」

はい	いいえ
0名(0%)	23名(100%)

### 【考察】

設問③④では、農業や水産業が本学級の児童の身近な存在であるかどうか調査した。本校の学区である土気地区やその周辺には、田畑が広がっており、それに触れる機会が多いと思われる。実態調査においても、57%の児童が「身近な人が農業を営んでいる」と答えていることから、それが分かる。家庭によっては、すぐ近くに田畑を所有して実際に農作物を作っていたりする。通学路にも農作業をしている人たちをよく見かけるのではないかとと思われる。すなわち、本学級の児童にとって農業は、身近な存在であるといえる。

しかし、水産業では、全員が身近な人で水産業を営んでいる人がいない。つまり、水産業は本学級の児童にとって全く身近な存在ではないということになる。確かに、本校の学区の土気地区は、千葉市の中でも一番標高が高い土地であり、水産業が盛んな海からは遠く、身近な存在となりうるものもないので、仕方がない面もある。しかし、千葉県は他の都道府県と比べても漁業が盛んな県であるので、本単元の展開の中で、水産業の実態に触れることができる機会を与えて、身近な存在として水産業を考えることができる姿勢を作っていきたい。

⑤「米作りについてどんなことを知っていますか」（複数回答可）

・田植えをする・・・8名	・稲刈りをする・・・4名
・1年間かけて作る・・・3名	・機械化（田植機・コンバイン）・・・3名
・稲からできている・・・2名	・大変・・・2名
・畑で育てる・・・1名	・研ぐ・・・1名
・わからない・・・8名	

⑥「日本のコメは、どの地域で作られていますか」（複数回答可）

・低地・・・3名	・秋田県・・・3名
・千葉県・・・3名	・東北地方・・・2名
・新潟県・・・1名	・茨城県・・・1名
・わからない・・・13名	

【考察】

設問⑤⑥では、日本の農業、特に稲作に関する知識や考えを調査した。設問③より、本学級の児童の身近な存在として農業があるため、農業に対する意識の高さがこの調査でも伺えた。田植えや稲刈り、1年間かけて作られること、機械化に関することを知っている児童もいた。これは、4年生のときに千葉県の農業について学習したことが生きているのだと思われる。また、米作りのイメージとして「大変」であるというものを持っている児童がいるので、その考えを、生産者の工夫や努力という学習問題作りにつなげていきたい。

一方で、本時に繋がる質問として、どの地域で米作りが行われているか質問したところ、前単元の「日本の国土」で学習した岐阜県海津市の輪中の暮らしから、「低地」を挙げる児童がいた。また、4年生の時に学習した千葉県の佐原の米作りから、「千葉県」を挙げる児童もいた。その他には、お米の意イメージとして、東北地方や新潟県を挙げる児童がいたが、それほど数は多くなく、大半の児童は米作りがどの地域で行われているかイメージを持っていない。そのため、米の生産から消費までの地域の特色や輸送ルートを視野に入れた指導を行う必要がある。具体的には、本単元では、庄内平野の米作りについて取り扱うため、庄内平野の様子や、東北地方の米作りの特色、庄内平野から消費地までどのように輸送されているのか、写真や地図帳を活用しながら、児童の実態に合わせて、生産地から消費地までを追って指導していきたい。

⑦「水産業についてどんなことを知っていますか」（複数回答可）

・魚や海の生き物を獲る・・・4名	・魚に関する仕事・・・1名
・わからない・・・16名	

⑧「魚はどのような場所で獲れると思いますか」（複数回答可）

・海・・・15名	・川・・・15名
・港・・・3名	・湖・・・2名
・千葉県銚子市・・・1名	・池・・・1名
・地下水道・・・1名	・わからない・・・3名

【考察】

設問⑦⑧では、日本の水産業、特に漁業に関する知識や考えを調査した。設問④より、本学級の児童にとって水産業は身近な存在とは程遠く、それを示しているかの如く、設問⑦では、ほとんどの児童が水産業について何も知らないと答えている。そのため、水産業の小単元では、導入の工夫や中心資料の厳選が必要である。また、漁業について、かつお漁の仕組みや一本釣りや巻網量の違いについて、調べ学習や、そのまとめとしての図示を行うことにより、水産業について一つ一つ理解させていき、今後の水産業を考える思考材料の一つとして定着させていきたい。

また、魚がどのような場所で獲れるかという問いに、多くの児童が「海」や「川」と答えた。中

には、千葉県銚子市という、4年生で学習した千葉県の水産業を思い出して答えた児童もいたが、大半の児童は、漁業が盛んな地域を詳しく認識していないことがわかる。また、漁港だけではなく、日本近海の海流や潮の様子についての認識がないため、どの地域でどのような魚介類が盛んにとられているのかという考えを持っていない。そのため、単元において日本地図を扱いながら、日本近海の海流に目を向けさせて、焼津市を中心に、漁業の盛んな地域を数多く取り扱っていきたい。

⑨「なぜ米や野菜や果物が、なぜ千葉県以外でも作られていると思いますか」

- ・食料不足になるから。(8人)
- ・適した温度や環境、気候、地形などが違うから。(7人)
- ・わからない(8人)

**【考察】**

設問⑨では、本単元で問われている「生産者の工夫や努力」についての現段階での課題意識を調査した。約3分の1の児童が、千葉県以外で作られている理由がわからないと答えており、本単元において、導入時の工夫が一層大切であることを認識させられた。また、千葉県だけでは、食料が十分に生産できないため、他の地域が生産していると考えている児童も多い。しかし、前単元の日本の国土や気候についての学習を通じて、「適した温度や環境、気候、地形などが違う」と考えている児童もいるため、その考えを話し合い活動の中で積極的に取り上げて進めていきたいと考えている。また、どの児童も、輸送についての記述や、生産者・輸送業者の工夫や努力について触れている児童がいないため、そのような視点を持たせるための資料提示や、提示方法の工夫を行わなければならない。

**4 単元の目標**

- 我が国の農業や水産業に関心を持ち、これらの産業は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりを持って営まれていることを理解し、国民の食生活を支える我が国の食料生産の発展を考えようとする。
- 我が国の農業や水産業の様子から学習問題を見だし、地図や地球儀、統計などの各種の資料を活用し調べてまとめるとともに、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりを持って営まれていることについて思考・判断したことを、適切に表現する。

**5 単元の評価基準**

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
我が国の農業や水産業に関心を持ち、庄内平野や静岡県を事例として意欲的に調べるとともに、国民生活を支える食料生産の発展を具体的に考えようとする。	我が国の農業や水産業の様子から学習問題を見だし、農業や水産業が自然環境を生かしたり克服したりして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを考え、適切に表現している。	我が国の農業や水産業の様子について、地図や地球儀、統計などの各種資料を活用するなどして必要な情報を集め、国民生活や自然環境とのかかわり、生産の工夫や努力、生産地と消費地とを結ぶ運輸などの働きを読み取って、白地図や作品にまとめている。	我が国の農業や水産業が国民の食料を確保する重要な役割を果たして国民の食生活を支えていること、農業や水産業は自然環境と深く関わりをもって営まれていることや、それらの生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを理解している。

6 単元の指導計画

		時数	主な学習活動と内容
オリエンテーション		1 (本時)	○私達が普段食べているものがどこから運ばれてくるか、食料品のパンフレットやカタログ、チラシなどを集めて、食料品の産地の位置を地図帳で確かめて白地図に整理し、気づいたことを話し合う。(本時)
		1	○食材調べの結果を比べて、わたしたちの食生活を支える食材がどこでどのようにつくられているか調べるための学習問題を作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">わたしたちの食生活を支える食料は、どこでどのように作られているのでしょうか。</div>
1. 米づくりのさかんな庄内平野 (⑩時間扱い)	つかむ	1	○日本の各地の6月の様子の写真から、各地の米作りの様子や地域による違いを調べ、気が付いたことや考えたことを出し合う。
		1	○写真や統計資料から、庄内平野がどのようなところなのかを読み取り、わかったことを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">米づくりのさかんな庄内平野では、よりより米を消費者に届けるために、どのような工夫や努力をしているのでしょうか。</div>
	調べる	1	○庄内平野で米作りがさかんなわけを、写真や地図、資料などをもとに調べて、米作りと自然条件、人々の工夫や努力とのかかわりについて調べる。
		2	○庄内平野の農家についての資料を集めたり、インターネットの情報を活用したりして、米作りの仕事について調べ、農事歴にまとめる。 ○土気地区の稲作農家にインタビューして庄内平野との相違点を調べる。 ○調べてわかったことをもとに、米作りの工夫や努力について話し合う。
		1	○米作りにかかわる行事や文化について、資料をもとに調べる。 ○米作りの1年を振り返りながら、考えたことを話し合う。
		1	○庄内平野の農家の人たちが、様々な形で協力しながら米作りに取り組んでいることを調べ、農家が協力し合うわけを考えて話し合う。
		1	○農業協同組合や水田農業試験場などの役割について調べ、米作りの工夫や努力を支える仕組みについて分かったことを話し合う。
		1	○庄内平野で生産された米が消費者に届けられるまでの様子を調べ、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きや、生産や輸送にかかる費用と米の価格の関係を話し合う。
	まとめる・いかす	1	○米の生産量と消費量の変化のグラフから、日本の米作りが抱える課題について話し合う。 ○土気地区のJAの職員の方から話を聞き、農業の現状を知る。 ○これまでの学習をもとに、日本の米作りを元気にするための提案をまとめ、実際に行われている取り組みと比べて、自分たちの提案について意見を出し合う。
	2. 水産業のさかんな静岡県 (⑧時間扱い)	つかむ	1
調べる			1

		1	○焼津港にかつおが多く水揚げされている理由について予想し、写真や地図帳から調べて、港全体の工夫などについて話し合う。
		1	○生産量や働く人、輸入量の変化をグラフから読み取り、理由を予想して発表しあう。
		2	○うなぎの養殖業について調べ、養殖に携わる人の努力や工夫について考える。 ○栽培漁業について調べ、放流までに多くの努力があること、養殖や栽培漁業によって水産業が支えられていることを考える。
		1	○水揚げされた真鯛がどのように消費地に運ばれているか、また新鮮なまま運ぶための工夫について調べて発表する。
	まとめ	1	○海や魚を守るための工夫について考えて話し合う。 ○水産業について学習したことの中から最も興味を持ったことについて、新聞などにまとめる。
3. これからの食料生産とわたしたち(④時間扱い)	つかむ	1	○食の安全に関する新聞記事を読み、どのようなことが問題になっているのかをつかむ。 ○値段の違いは、どのような理由によるのか、話し合う。 ○どのような野菜を買いたいと思うか、それはなぜか、自分ならどうするか、などについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">消費者も生産者も大切にするこれからの食料生産は、どのように進めていったらよいのでしょうか。</div>
		1	○食料品の消費量の変化、輸入量の変化などの統計グラフも用いて、食生活の変化の理由について話し合う。
	調べる	2	○食料生産の現場の変化を統計資料などから読み取る。 ○食材を手に入れる方法が新しくなっていることに気づき、それらがなぜ出てきたのか話し合う。 ○地産地消の利点について話し合う。
学習のまとめ		2	○これまで学習してきたことを生かして、日本の食料生産について伝える「電子かみしばい」をコンピューターを活用して作成する。

## 7 市教研の研究主題との関連

社会の形成者として主体的に判断し行動する力を育てる社会科学習のあり方

本年度主題解明のための方策（市教研社会科部会研究計画案より）

- ①児童生徒の学習意欲を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ②児童生徒に調べ方や学び方を習得させる指導と評価のあり方を明らかにする。
- ③基礎的・基本的な内容の定着を目指した学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ④児童生徒の多面的・多角的な思考力を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ⑤よりよい社会を築いていこうという意味をもって行動する力を育成する学習指導と評価のあり方を明らかにする。

本単元では、①と⑤を重点的に考えた計画を立案した。

### ① 児童生徒の学習意欲を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。

5年生の日本国内の産業に関する学習の最初の大単元であり、児童の身近な興味・関心から学習問題作りを進めていきたいと考えている。そこで、児童の興味が引きやすい具体物を用いて単元の導入の工夫を行い、効果的な学習問題作りによって、その後の単元において学習意欲が継続するようにしてい

たい。大単元のめあてづくりの学習においては、カレーといった児童にとって身近な料理を実物で授業に用意し、その食材がどこから仕入れられているのか、実物や近所のスーパーのチラシから考えることによって児童の興味・関心を引き出し、普段の生活経験から一歩進んだ視点で「食」を考える機会を与えたい。また、外部講師や外部機関を積極的に活用し、農業や水産業を身近な存在として関心を高めていきたい。具体的には、土気地区の稲作農家の方から米作りの一年間の流れについて話を聞いたり、土気地区のJAの職員の方に来てもらい、米の流通や販売、その工夫について話を聞いたりする。土気地区周辺の農家は全国的に卸売する生産規模は持っていないものの、JAを通じて消費者に販売しているため、その中で品質を高める工夫や自然環境と関わっていく努力などの話を聞いて、身近な存在としての「農業」を認識させたい。さらに、教科書の資料だけではなく、ICTを活用した授業を展開し、提示資料を効果的に見やすく分かりやすく児童の注目を集めて授業に使っていく。導入において、米の生産風景や輸送風景が一目でわかる画像や動画を見せることで、児童の興味・関心を引き付け、明確に課題把握をさせたい。また、調べる活動において、教科書や資料集、地図帳の資料だけでは、深く追求したい児童にとってなかなか求める資料が手に入りにくい場合も考えられ、その結果、調査する意欲や興味が減衰してしまうので、教科書以外の読み物資料も豊富に集めて調べ学習を充実させたい。具体的には、千葉市中央図書館の団体貸し出しを利用して、東北地方の米作りや水産業に関する書物を集めて、調べ学習の場に提示して、より深くより広く調べる活動を取り入れて、児童の追及する意欲を高めていきたいと考えている。

⑤よりよい社会を築いていこうという意思をもって行動する力を育成する学習指導と評価のあり方を明らかにする。

近年、産地偽装問題や食中毒問題、TPP参加による輸入自由化を巡る是非、東日本大震災による東北地方を中心とする産業の不振など、農業や水産業の課題が浮き彫りになる事例が多々存在する。我が国の国民の食生活を支える食料生産の発展を国民一人一人が考えなければならないと思われる。

本単元では、その素地を育てる上で、農業や水産業が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりを持って営まれていることを理解するだけでなく、よりよい農業や水産業のあり方を考えさせて発表させることにも取り組みたい。これからの農業や水産業のあり方について、自分自身の生活と結びつけて考え、食糧生産の発展にはどうすればよいか考え、それを適切に表現する力を身に付けさせたい。本単元のめあてづくりにおいて、食材の産地調べを行うことで、食材が全国各地からさまざまところから生産されて運ばれてきていることに気付かせたい。そして、農業や水産業の調べ学習を通じて、具体的な生産や輸送の仕組みや工夫、努力をつかませたい。その結果として、農業の小単元では、米の生産量と消費量のグラフから、米作りの今後について児童の調査した結果を踏まえて自分の意見を持たせて、形式を工夫して発表させたい。水産業の単元では、漁獲量の変化のグラフをもとに、海や魚を守る活動に焦点を向けて、どのように海洋資源を保護・活用していけばよいか話し合わせたい。また、土気地区の農家の方やJAの職員の方に、農業の工夫や努力だけではなく、今後の農業がどうなってほしいかなどの願いや思いを持って仕事をしているかの話聞くことにより、生産者などが日本の食料生産の発展を願って日々取り組んでいることを実感させたい。単元のまとめでは、今後の食料生産について自分が考えたことや、これから自分が取り組んでいきたいことなどを、コンピューターを活用して電子かみしばいにまとめて、他の全校児童や地域の人たちに伝える活動を通じて、自分たちが食料生産の発展に努めていきたいという思いを持たせ、児童の社会参画の意識を高めていくようにしていきたい。

## 8 本時の指導

### (1) 本時の目標

- 自分たちが普段食べている食料の産地に関心を持ち、チラシや地図帳を使って意欲的に調べることができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)

(2) 本時の展開 (1/2)

学習活動と内容	教師の指導・支援	資料等
<p>1. 教師が持ってきた、教卓の上にある1つの段ボール箱の中身を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お皿の上に何かが乗っている。</li> <li>・カレーの匂いがある。</li> <li>・開いていくとご飯が見える。</li> </ul> <p>2. 教卓の上のカレーを見ながら、普段、自分の家のカレーの中にはどんな食材が入っているか話し合い、一般的な食材から各家庭のオリジナルな食材など、いろいろな食材を挙げる。 (ただし、調味料や加工物は除くことを確認する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご飯(米)は必ず入れるよね。</li> <li>・ウチはナンで食べたりするよ。</li> <li>・じゃがいもは入っているね。</li> <li>・人参や玉葱も欠かせないよ。</li> <li>・私の家はナスを入れます。</li> <li>・(牛)肉を入れたりするよ。</li> <li>・海老を入れるとおいしいよ。</li> <li>・りんごが入っている。</li> </ul> <p>3. 話し合いの中で挙げられたカレーの食材がどこで作られているか調べる本時の学習問題を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ箱の中には、カレーを一皿(食材は米・じゃがいも・にんじん・たまねぎ)入れる。</li> <li>・箱の蓋をゆっくりと開けていき、児童の気づきや発見を徐々に促す。</li> <li>・児童が、自分たちの身近な食生活を考えられるように、児童の好物であるカレーを題材に考えさせる。</li> <li>・児童の普段の各家庭の食生活と食料生産を関連させて、興味・関心を持って考えられるように、自分の家でどんな食材が使われているか、一般的な食材から各家庭独特な食材を挙げさせる。</li> <li>・出てきた食材は、穀物・野菜・果物・肉類・魚介類に分類しながら、黒板に書いたりカードを貼ったりしていく。</li> <li>・一般的な食材が出てきたら、用意していた実物の食材を見せて、児童の食材に対するイメージを膨らませる。</li> <li>・食材は全て自分の家で作っているのか、スーパーで作られているのか、実際はどこで作られているのかと発問する。</li> </ul>	<p>カレー</p> <p>カレーの食材 (じゃがいも・玉葱・人参・米・ナス・りんご) 食材が書いてあるカード。</p>
<p>わたしたちがいつも食べているカレーの食材は、どこで作られているのだろうか。</p>		
<p>4. カレーを題材に「食材産地探しゲーム」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師から、A1の日本白地図1枚と5色のシールを受け取り、前もって集めてきた近所のスーパーのチラシ数枚を用意する。</li> <li>・6班に分かれて、食材がどの産地から来ているのか、持参してきたスーパーのチラシを見ながら調べる。</li> <li>・かごの中の実物の食材を見ながら、チラシの中からその食材を探す。</li> <li>・チラシに載っている食材の産地(千葉県産など)を地図帳で調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題を書いた模造紙を黒板に掲示して児童のワークシートに書かせる。</li> <li>・電子黒板に日本の白地図を表示し、その白地図を使って、チラシで探す方法やシールを貼る方法の説明を行う。</li> <li>・机上には、地図帳と筆記用具のみ児童に用意させる。</li> <li>・児童にワークシートを配布して、そこに「食材探しゲーム」の説明文を載せて、作業中にいつでもルールが確認できるようにしておく。</li> <li>・各班にA1の日本白地図1枚と5色のシール複数枚と児童が前もって集めてきた地元スーパーのチラシ数枚(班によって種類は異なる)を配る。</li> </ul>	<p>電子黒板 5色シール 日本白地図 スーパーのチラシ 地図帳 かご カレーの食材 ワークシート</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>調べた結果をシール（米は黄色、野菜は緑色、肉は赤色、果物は橙色、魚介類は青）に食材名を記入して班ごとのA1の日本白地図に手分けをして貼っていく。</li> <li>食材の産地が複数ある場合や、複数のチラシから探して2つ以上の産地がある場合は、A1の日本白地図の複数個所に産地シールを貼る。</li> <li>チラシに「外国産」「海外産」と表示されている食材は、日本白地図の外国産の枠にシールを貼る。「国産」と表示されている食材のみ、国産の枠にシールを貼る。</li> <li>調べている最中に気が付いたことや思ったこと、わかったことがあれば、適宜ワークシートに記入する。</li> </ul> <p>5. 班の代表者が調べた料理の食材の産地や気が付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米は新潟県が産地だ。</li> <li>じゃがいもは北海道が産地だ。</li> <li>にんじんは千葉が産地だ。</li> <li>玉葱は千葉県が産地だ。</li> <li>牛肉は外国が産地となっている。</li> <li>同じ食材も産地が違うものがある。</li> <li>いろいろな地域から食材が運ばれる。</li> </ul> <p>4. 話し合いで出されたことを元に、本時のまとめを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本白地図には、都道府県の境界線が入っているものと、「外国産」「国産」の枠を用意する。</li> <li>班ごとに実物のカレーの食材（米・じゃがいも・玉葱・人参・ナス）をかごに入れて配り、児童の興味・関心を引き出しつつ、食材を視覚的に捉えてチラシから探しやすくする。</li> <li>持参したチラシの産地名を確認させ、産地を地図帳で調べるように助言する。</li> <li>一通りかごの中の食材を調べ終わったら、話し合いに出てきた各家庭独特の食材について調べるように助言を行う。</li> <li>肉や野菜などで、複数の種類があるものについては、カレーでどのような種類の食材を使うのか予想させ、適宜助言を行う。</li> <li>調べている最中に気が付いたことや思ったこと、わかったことがあれば、適宜ワークシートに記入させる。</li> </ul> <p>各班でシールを貼った日本白地図を、ホワイトボードに貼って、簡潔に食材の産地を発表するように助言を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>黒板の横にホワイトボードを並べておき、6枚の日本地図が比較しやすいようにする。</li> <li>代表者を電子黒板の前に立たせて、自分の班で作成した白地図と、電子黒板に表示された白地図で、班の話し合いでワークシートに記入した気が付いたことや思ったこと、わかったことを踏まえて説明させる。</li> <li>まとめにつながりそうな発言を黒板に要点を板書する。</li> </ul>	<p>電子黒板 ホワイトボード 磁石</p>
<p>わたしたちがいつも食べている食材は日本や外国のいろいろなところで作られて、運ばれてくる。</p>		